

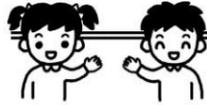
## これからの行事予定

### ① 「児童画作品展」開催中

恒例のロビー児童画作品展を開催します。  
今年は、芽室町内で絵画教室を主宰している今西ちはるさんの『こども造形絵画教室  
こどもアトリエ ひまわり』に通う、町内の児童生徒による作品の展示を企画しました。  
会員の皆さんのお子さんやお孫さん、近所の子供たちの力作が展示されます。  
どうぞ、お楽しみください

期間 平成26年1月14日(火曜日)～2月14日  
場所 1階診察ロビー(眼科前)に於いて

作品展



第2弾として、今回で3回目となるMOA美術財団主催の全国児童画作品展の入選作品による  
ロビー作品展を引き続き計画しています。2月24日頃から1カ月程度の予定です。

### ② めむろ医療講演会の開催

テーマ『公立芽室病院を みんなで もっと よく知ろう』  
日時 平成26年2月22日(土曜日)午後1時30分～午後4時  
場所 芽室町中央公民館 2階講堂

講演 ① 演題 「エンゼルケアに対する看護師の意識調査とマニュアル作成」  
(第52回全国自治体病院学会出展)  
講師 公立芽室病院 山田看護師

講演 ② 仮題 「公立芽室病院の現状と外科的病気と診療の実際」  
講師 公立芽室病院 小窪院長

エンゼルケアとは、看取り看護を意味しています。人生の最期を迎える患者さんに対するお世話についての研究発表です  
講演①②ともに、質問の時間を設けています。この機会に医師、看護師さんと直接話し合ってみてはいかがでしょうか

#### 【公立芽室病院の院内研究活動について】

今回、講演いただく4階病棟看護師による「エンゼルケアに対する看護師の意識調査とマニュアル作成」について以外にも  
公立病院の助産師が第43回北海道母子衛生学会学術講演会において行った「妊娠中の乳管開通操作の有効性の検討」という  
研究発表は、ベストプレゼンテーションを受賞されるほどの高評価を得ています。

## 小児救急冊子配布説明会 [ 随時開催中 ]

### 冊子「病院へ行く、その前に」配布活動

子供の急な発熱の時などの対処法などが書かれた冊子を配布し、その内容の説明をしています。  
お母さんの不安解消に、そして適切な判断をするための参考書として広まっている冊子です。  
育児グループ、ママ友の集まりなどに出向きますので希望の方は、お問い合わせください。

問い合わせ 62-1439〔鳥本〕 62-4081〔片桐〕

# 支える会 っうしん

公立芽室病院をみんなで支える会広報  
第7号  
2014年1月発行



## 新年 あけまして おめでとうございます

十勝清れの穏やかな年明けとなり、心身ともにゆったりと新年を迎えられたことと  
お喜び申し上げます。

支える会も会員の皆様のご協力により、少しずつ歩みを進めることができている  
新年にあたり会員の皆様にあらためて感謝申し上げますと共に、更なるご支援ご協力を  
お願い申し上げます。

平成25年度の病院経営は、医師の不足(常勤医の不在、医師自身の病気による休診など)や  
慢性的な看護師不足などの影響があつて大変な苦戦を強いられています。  
医師、看護師をはじめ病院関係者の皆さんは、通常の医療業務のほか、病院の運営についても  
ご苦勞をなさっています。  
経営面でのV字回復は難しくとも、病院関係者の皆さんの苦勞が報われることを願ってやみません

## 募集の発信です!

### ◇ ボランティアについて2題 ◇

#### 1 『生け花ボランティア』協力者を募集しています!

支える会発足時から、有志により受付ロビーを飾っている「生け花」について協力者を募集しています。  
生け花の提供は、月1回程度、現在3名の方が毎週月曜日に生け花の交換をしています。  
1グループまたは1個人の協力を得られると、各人が月1回のボランティアで実施することができます。  
協力可能な方は、支える会事務局(62-2516)まで連絡をお願いします。

#### 2 ボランティアについて検討しています

支える会では、会員さんからの「看護師さんなどの手助けになるようなことで、私たちにできることが  
何かありませんか?」という声をうけて、婦長さんなどに聞き取りを行っています。  
医療行為にあらず、医療の知識を重要視されない範囲でのお手伝いならば、新たなボランティア活動  
として実施可能ではないかと考えています。  
外来での呼び出しの補助、院内の案内補助、病棟での食事介助、散歩介助、といった項目が検討されて  
いますが、会員さんからのご意見も募集しています。  
質問、提案、意見などありましたら、鳥本会長(62-1439)までお寄せください。

## 活動報告

### ① 地域医療を守る住民活動に関するシンポジウム

一住民と医療機関の連携を諸団体の実践事例に学ぶー  
(北海道医師会 主催 札幌市)

平成 25 年 10 月 25 日

北海道内で地域の病院を支援している住民による活動の実践事例を紹介するシンポジウムが開催されました。

支える会をはじめ、留萌がんばるかい、紋別の地域医療を育てる会、別海町医療サポート隊 医良同友の 4 団体が活動報告を行いました。

年々、北海道各地で地域の病院を守ろう支えようという団体が増えています。

各パネラーが、其々の地域の医療の現実や課題を語り、地域医療をどう守っていくのか議論を深めました。



[活動報告をする 鳥本会長]

### ② 支える会住民懇談会

(めむろーど 3 階 レファレンス室 参加者 20 名)

平成 25 年 11 月 18 日

住民の立場で、公立病院を考える『支える会住民懇談会』が開催され、意見交換会では、会の活動について具体的に建設的な意見が多く寄せられ、今後の活動の参考となる懇談会となりました。

- ・年度ごとに具体的な目標を定めて活動してはどうか。
- ・地域ごとの出前講座のような医師との懇談会を支える会が主体的に開催してはどうか
- ・公立病院に対して、これからは在宅医療を進めてほしい
- ・どうして医師は辞めていくのか、どうして医師は来てくれないのか、新しい医師が赴任した時は歓迎会を開き歓迎の意思を伝え、辞める時には送別会を開いて、芽室での勤務はどうだったのかなぜ辞めるのかを聞きたい など

### ③ 【特別寄稿】 病院周辺の美化活動に参加して

平成 25 年 11 月 2 日

花壇の後始末

会員番号 102

田村 精 悟

11 月 2 日、小春日和の気持ちの良い朝でしたが「公立芽室病院」の花壇の後始末でした。作業は 9 時よりでしたが、10 時から施設「ふたば」での『子供将棋教室』のボランティアがありましたので、途中で失礼することになるのかと心配していましたが、なんとなんと 20 名を越す会員が出席されたので「アッ」と言う間に終わってしまいました。

今年は、霜が遅かったせいか、花はまだ綺麗に咲いていましたが「まだ 咲いているのに ごめんね」と謝りながら袋に入れました。

早々に作業も終わり、温かい「お茶」を飲む皆さんの顔も晴れ晴れとしていたようです。

今年も病院の北側をはじめ、正面玄関前そして南側とまわり一面が綺麗な花で彩られました。

私は、週 3 回腰痛のリハビリで病院を訪れますが、時には花壇を眺め「早く咲くんだよ」「綺麗に咲いたね」「もう少し頑張るね」などと声を掛けて、私自身も元気をもらいましたが、多くの患者さんや訪問者の方々もこの美しい花々を眺め癒されたのではないでしょう。

来年もまた、微力ながらお手伝いして、綺麗な花を咲かせたいものです。

それにしましても、私は初めと終わりの作業への参加だけでしたが、花の育つ約半年もの間、雑草や枯花を採ったり、水をやったりと、お世話下さった方が何人かいらっしゃったようです。

来年は、期間を決めて私も協力したいものだと思います、ご面倒をおかけしますが、会長さんにそんな『当番制』のお願いをした次第です。

来年もまた、綺麗な花一杯で病院を飾りましょう。

皆様お元気で。



## 教えて！ 支える会コーナ



「待ち時間が長い、長すぎる！」

公立病院への不満として、よく言われている言葉です。  
どうにかならないのでしょうか？



公立病院としても、待ち時間についての苦情が多いことを承知しています。

患者さんの負担を軽減できるような方法がないか検討を重ねて昨年途中から内科と整形外科の一部で実施している予約診療などが待ち時間を短縮するための試みとなりました。

初診では、予約することはできませんが、2 回目以降からは次回の予約をすることができます。また、初診の患者さんについても、診察番号を表示して、診察の進行具合を明示しています。

予約診療は、待ち時間の短縮について、時間通りにならないこともあります。効果があると考えています。また、計画的に診察することができるという医師側のメリットもあります。

## 救急医療 利用のルール (救急車編)



### ルール違反

命を守る救急車の利用実態が変化してきています

- ・ 休日の当番病院が分からないから、連れて行って！
- ・ 救急車はお金を払わなくていいから！
- ・ 救急車で行けば、すぐ診てくれるでしょ！
- ・ 子供が熱っぽいので、すぐ来て！

こんな場合は  
すぐに救急車を！！

- 意識がない
- 骨折して歩けない
- 呼吸困難
- 激しい胸痛、腹痛、頭痛
- 多量の出血
- 広範囲のやけどなど

こんな使い方は  
困ります！！

- × 緊急性のない軽症 (かぜ、切り傷、打撲など) のとき
- × 「いい病院に搬送してほしい」、「優先的に診てもらえそう」などの理由
- × 通院や入院するときのタクシー代わりに

このままでは **救急医療体制が崩壊** しかねません  
みなさんのご理解とご協力をお願いします

いま救急医療の現場では、救急隊員・医師・看護師が一刻を争う患者さんの搬送～治療に最善を尽くそうとしても、手が回らない深刻な問題を抱えています。

救急車の不適切な利用や、二次・三次救急医療機関に緊急性のない軽症者が押し寄せ、そこに勤務する医師が疲弊してしまい、本来の役割である入院や手術が必要な重症者の治療が困難になりつつあることが大きな要因です。

安心して暮らせる地域の救急医療を守るために

どうしたらいいのか、みなさんに考えてほしいのです

<北海道医師会発行物から抜粋>